

人生100年応援ファンド

(資産成長コース)

【愛称:みらいストーリー】

【運用報告書(全体版)】

(2020年9月16日から2021年3月15日まで)

第 4 期

決算日 2021年3月15日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限(設定日:2019年3月19日)
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て) 主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券(ETF) マネー・トラスト・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。 ■中長期的な目標リターンとして短期金利相当分+年3%程度を目指して資産配分を行います。 ■投資対象とする外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年2回(原則として毎年3月および9月の15日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間:午前9時~午後5時(土、日、祝・休日を除く)

■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 券 組 入 率 比	投 資 信 託 証 券 組 入 率 比	純 資 産 額
		税 込 金	騰 落	中 率			
(設 定 日) 2019年 3月19日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 126	
1 期(2019年 9月17日)	10,240	0	2.4	0.0	99.0	248	
2 期(2020年 3月16日)	8,582	0	△16.2	0.0	98.7	288	
3 期(2020年 9月15日)	10,481	0	22.1	0.0	99.0	400	
4 期(2021年 3月15日)	11,882	0	13.4	0.0	97.5	423	

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 率 比	投 資 信 託 証 券 組 入 率 比
		騰 落	率		
(期 首) 2020年 9月15日	円 10,481	% —	% 0.0	% 99.0	
9 月末	10,445	△ 0.3	0.0	99.0	
10 月末	10,234	△ 2.4	0.0	99.2	
11 月末	11,033	5.3	0.0	98.9	
12 月末	11,247	7.3	0.0	99.1	
2021年 1 月末	11,346	8.3	0.0	99.0	
2 月末	11,797	12.6	0.0	99.3	
(期 末) 2021年 3月15日	11,882	13.4	0.0	97.5	

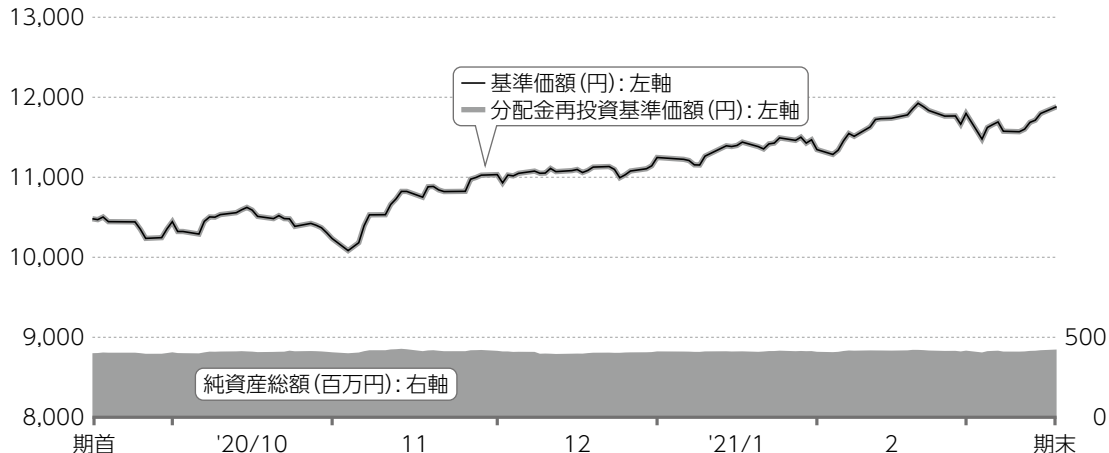
※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	10,481円
期末	11,882円 (分配金0円(税引前)込み)
騰落率	+13.4% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

基準価額の主な変動要因（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

当ファンドは、主として上場投資信託（E T F）への投資を通じて世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資を行う外国投資信託証券*を主要投資対象としました。

なお、世界の債券に投資するE T Fについては、為替ヘッジ付きのものを投資対象としています。

*外国投資信託証券の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。

上昇要因

- 先進国株式が上昇したこと
- 日本株式が上昇したこと
- 新興国株式が上昇したこと
- 米国および日本のリート市場が上昇したこと
- 為替市場で米ドルとユーロが対円で上昇したこと

下落要因

- 米国国債、米国投資適格社債市場が下落したこと

組入れファンドの状況

組入れファンド	投資資産	期末組入比率
ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)	世界各国の株式、 債券、リート等	97.5%
マネー・トラスト・マザーファンド	短期金融資産	0.0%

*比率は、純資産総額に対する割合です。

投資環境について（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

株式市場においては、日本株式、先進国株式、新興国株式はともに上昇しました。また、債券市場においては、ハイイールド社債市場が上昇した一方で、米国長期国債、投資適格社債市場が下落しました。リート市場では日本・米国ともに上昇しました。為替市場では、米ドルとユーロが対円で上昇しました。

株式市場

日本株式、外国株式市場はともに上昇しました。

期初には、主要国での新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、経済への懸念が高まったことから、10月にかけて株式市場は下落しました。11月以降は、米国の大統領選挙で民主党のバイデン氏が勝利し追加経済対策への期待が高まったことや、新型コロナウイルスワクチンの接種が始まったこと等による世界経済の回復に関する楽観姿勢を背景に、株式市場は上昇基調で推移しました。

2021年1月下旬には、一部銘柄に対する個人投資家による投機的な売買の影響で相場が混乱するとの警戒感から、売りが広がりました。さらに、2月に入ると、先進国の長期金利急上昇を受けて、相対的な割高感が意識されやすいハイテク株を中心に調整が入る局面もありました。しかし期末にかけては、米国長期金利の上昇一服や景気回復への期待で、株式市場は上昇しました。

当期のTOPIX（東証株価指数、配当込み）は21.2%、MSCIコクサイインデックス（配当込み、米ドルベース）は18.2%、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）は22.1%それぞれ上昇しました。

債券市場

米国長期国債市場は期を通じて下落しました。ワクチン普及や追加経済対策に伴う景気回復加速への期待、インフレ圧力の高まりへの懸念等が背景となりました。

クレジット市場では、米国ハイイールド社債市場が前期末比で上昇した一方、米国投資適格社債市場は下落しました。11月初め以降、株価の回復や堅調な企業決算やFRB（米連邦準備制度理事会）による支援的な政策等を背景に堅調に推移しましたものの、1月から期末にかけては急激な金利上昇を受けて軟調な動きとなりました。

当期の米国10年国債利回りは、期首0.67%から期末は1.62%に上昇しました。

リート市場

リート市場は日本・米国ともに、前期末比で上昇しました。

大規模な金融緩和が継続する中、投資家の利回り追求の動きが続きました。さらに、米国を中心に大型の経済対策が早期の景気回復につながるとの期待から投資家のリスク選好姿勢が強まり、上昇基調が継続しました。

当期の東証REIT指数(配当込み)は15.6%、MSCI米国REITインデックス(米ドルベース)は、15.2%それぞれ上昇しました。

為替市場

米ドル・円は、期の前半は米国の金融緩和政策の長期化観測を背景に、米ドル安・円高で推移しました。しかし1月以降は、米国で大型経済対策に伴う景気回復期待や国債増発懸念を背景に長期金利が上昇し、日米金利差の拡大を見込んだ円売り・米ドル買いが進みました。前期末比では米ドルが対円で上昇しました。

ユーロ・円も、新型コロナウイルスワクチンの接種が進み、経済活動が正常化に向かうという期待感等から、期を通してみれば、ユーロが対円で上昇しました。

当期の米ドル・円は、期首105円74銭から期末109円06銭と3円32銭の米ドル高・円安、ユーロ・円は期首125円49銭から期末130円34銭と4円85銭のユーロ高・円安となりました。

ポートフォリオについて(2020年9月16日から2021年3月15日まで)

当ファンド

「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」を高位に組み入れて運用を行いました。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド
(アキュムレーティング・クラス、円建て)

●資産配分

年率10%程度のリスク量を目標に、各国の指数に連動する債券、株式といった伝統

的資産に加え、ハイイールド社債、新興国株式、内外REIT（不動産投資信託）を加え、為替リスクも考慮したうえでポートフォリオ全体のリスク分散を図り、長期に安定したパフォーマンスを提供することを目標として組み入れを行いました。

組み入れたETFは、いずれも各資産クラスを代表する指数に概ね連動するもので、グローバルな市場に分散して投資を行うという、当ファンドの目的に適しています。また、各資産への配分比率は、短期的な市場変動の際にも一定の対応力があると思われる比率を勘案したうえで決定しています。

期初は、国内外株式を7割弱程度組み入れることで今後の経済回復見通しを背景にしたリターンの獲得を図る一方で、市場の変動性の影響を抑制することを考慮し、外国債券を3割弱程度組み入れました。

国内株式では市場混乱時における安定性を考慮し、最小分散株式を1割弱程度組み入れました。

外国債券では、緩やかな経済成長に伴う金利上昇に配慮して、米国債だけでなく、投資適格社債、ハイイールド債券に分散投資を行いました。なお、ポートフォリオの

収益源を多様化するため、国内外のREITへ1割投資しました。

9月末のリバランス（投資配分比率の調整）では、欧米株式に対し出遅れ感のある日本株式への投資妙味が高まったと考え、国内株式のウェイトを高めとした一方、中期に金利上昇が見込まれる債券のウェイトを引き下げました。その後、堅調な実体経済の回復や主要中央銀行の緩和的政策に下支えされた株式市場の上昇を見込み、外国債券のウェイトをもう一段引き下げ、外国株式のウェイトを引き上げました。その後、12月のリバランスでは、ハイイールド社債の спреッド（国債に対する上乗せ金利）の急速な縮小を受けて、短期的に価格上昇余地が縮小しているとの判断から、ハイイールド社債のウェイトを若干削減する一方で、投資適格社債のウェイトを引き上げました。

マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項目	第4期
当期分配金	—
（対基準価額比率）	（—％）
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,881

当期の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」の投資比率を高位に保ちます。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）

先進国株式市場は、長期的には、新型コ

ロウイルスワクチンの普及が経済活動の正常化を促すとの期待が強まり、底堅く推移するとみています。一方、米国金利急上昇への懸念が払しょくされておらず、再び市場を左右する要因となる可能性もあります。

債券市場については、米国では、市場は利上げ時期の見通しを前倒しし始めているものの、FRBが緩和的な金融政策を長期間維持するスタンスを示していることから、金利の上昇スピードは緩やかなものになるとみていますが、短期的には注意が必要であると考えます。社債市場は、低金利環境における利回り追求の動きが価格をサポートすると考えられます。また、FRBやE

CB（欧州中央銀行）による社債買入れの継続や景気回復期待等を背景に、相対的に良好な需給環境が続くと見込まれます。

ポートフォリオでは、実体経済動向や金融政策動向、各資産のバリュエーション（投資価値評価）等に留意しつつ、中長期的な目標リターンの獲得に向けてリバランスを実施していく方針です。当面は、市場環境を

見極めつつ、慎重にリスク量を管理しつつ運用を行なっていきます。

マネー・トラスト・マザーファンド

引き続き、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

■ 1万口当たりの費用明細（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

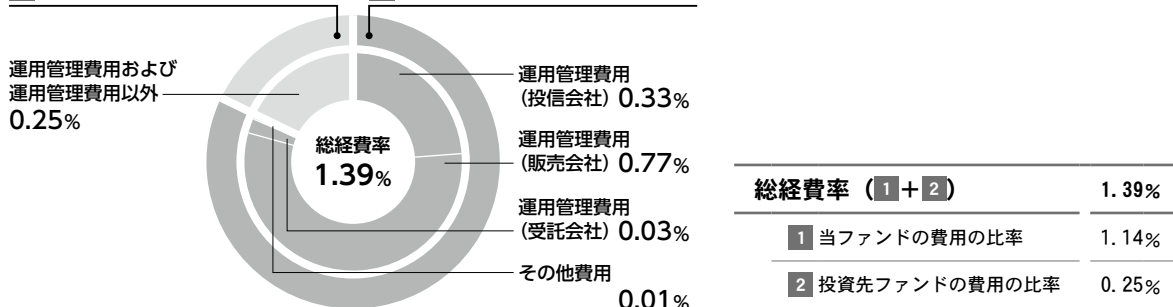
項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	62円 (18) (42) (2)	0.562% (0.164) (0.382) (0.016)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 投信会社：ファンド運用の指図等の対価 販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用) (その他)	0 (0) (0)	0.003 (0.003) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数 監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	62	0.565	

期中の平均基準価額は11,017円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。
 ※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
 ※各項目毎に円未満は四捨五入しています。
 ※その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
 ※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の費用は後掲の「損益計算書」をご覧ください。

参考情報 総経費率（年率換算）

2 投資先ファンドの費用 0.25% 1 当ファンドの費用 1.14%



※1の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値（小数点以下第2位未満を四捨五入）です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。
 ※2の投資先ファンド（当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く））の費用は、実際に投資しているシェアクラスのデータが入手できない場合は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算したものです。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できない場合は、まとめて表示しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。
 ※1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。
 ※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率（年率）は1.39%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

投資信託証券

		買		付		売		付	
		口	数	買	付 額	口	数	売	付 額
国内	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)		口		千円		口		千円
		2,520		27,400		5,797		65,700	
合 計		2,520		27,400		5,797		65,700	

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 利害関係人との取引状況等（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2020年9月16日から2021年3月15日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細（2021年3月15日現在）

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	期 首 (前期末)		期 末	
	口	数	口	数
ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)		口		口
	37,195		33,918	
合 計	37,195		33,918	

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)		期 末	
	口	数	口	数
マネー・トラスト・マザーファンド		千口		千口
	64		64	

※マネー・トラスト・マザーファンドの期末の受益権総口数は18,404千口です。

※単位未満は切捨て。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

■ 投資信託財産の構成

(2021年3月15日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 412,924	96.6%
マネー・トラスト・マザーファンド	63	0.0
コール・ローン等、その他	14,386	3.4
投資信託財産総額	427,373	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2021年3月15日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	427,373,397円
コール・ローン等	10,585,026
投資信託受益証券(評価額)	412,924,474
マネー・トラスト・マザーファンド(評価額)	63,897
未 収 入 金	3,800,000
(B) 負 債	3,982,172
未 払 解 約 金	1,663,768
未 払 信 託 報 酬	2,307,231
未 払 利 息	30
そ の 他 未 払 費 用	11,143
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	423,391,225
元 本	356,336,477
次 期 繰 越 損 益 金	67,054,748
(D) 受 益 権 総 口 数	356,336,477口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C/D)	11,882円

※当期における期首元本額382,156,449円、期中追加設定元本額58,073,657円、期中一部解約元本額83,893,629円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 た り 分 配 金 (税 引 前)	当 期
	一 円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■ 損益の状況

(自2020年9月16日 至2021年3月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 2,758円
支 払 利 息	△ 2,758
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	49,481,169
売 買 益 損	54,635,659
売 買 損	△ 5,154,490
(C) 信 託 報 酬 等	△ 2,318,629
(D) 当 期 繰 越 損 益 金(A+B+C)	47,159,782
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	8,109,787
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	11,785,179
(配 当 等 相 当 額)	(5,545,322)
(売 買 損 益 相 当 額)	(6,239,857)
(G) 計 (D+E+F)	67,054,748
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	67,054,748
追 加 信 託 差 損 益 金	11,785,179
(配 当 等 相 当 額)	(5,545,322)
(売 買 損 益 相 当 額)	(6,239,857)
分 配 準 備 積 立 金	55,272,110
繰 越 損 益 金	△ 2,541

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※期末における、費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(47,160,890円)、信託約款に規定する収益調整金(11,782,638円)および分配準備積立金(8,111,220円)より分配可能額は67,054,748円(1万口当たり1,881円)ですが、分配は行っておりません。

■ 組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）
形態	ケイマン籍外国投資信託（円建て）
主要投資対象	主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF）
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・主にブラックロック・グループが運用するETFであるiシェアーズを通じて様々な資産への投資を行い、値上がり益および利子・配当等収益からなるトータルリターンを獲得を目指します。 ・ファンドの想定リスクが大きくなる場合は、資産配分を見直し、現金等の保有比率を高める場合があります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・有価証券の空売りは行いません。 ・純資産総額の10%を超える借入れを行いません。
決算日	毎年12月の最終営業日
分配方針	分配を行わない方針です。
運用報酬等	純資産総額に対して年0.15% 副投資顧問会社に対する報酬は、投資顧問会社の運用報酬より支払われます。 ファンドが投資するETFにおいても運用管理費用がかかります。
管理およびその他の費用	管理事務報酬：純資産総額に対して最大年0.04% （ただし、4万米ドルの年間最低報酬が適用されます。） 名義書換事務代行報酬：純資産総額に対して年0.01% 受託報酬：年間1万米ドル 上記のほか、取引関連費用、ファンドの設立費用、法務費用、監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。これらの費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
投資顧問会社	ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッド
副投資顧問会社	ブラックロック・ジャパン株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋・要約して翻訳したものを記載しています。

■ 損益計算書（2019年1月1日から2019年12月30日まで）

（単位：円）

投資収益：

受取配当金（源泉税控除後：73,293,348円）

405,151,774

収益合計

405,151,774

費用：

投資運用報酬

31,703,033

管理事務代行及びファンド会計報酬

8,454,135

保管報酬

4,499,174

監査報酬

4,007,848

証券代行業報酬

2,422,507

トラスティ報酬

1,079,005

その他報酬

1,719,778

費用合計

53,885,480

純投資収益

351,266,294

実現損失

投資有価証券

(42,409,766)

外貨取引および為替先渡契約

(1)

純実現損失

(42,409,767)

未実現評価益の変動

投資有価証券

3,125,353,760

外貨取引および為替先渡契約

8,754

未実現評価益の純変動額

3,125,362,514

純実現損失および未実現評価益

3,082,952,747

運用による純資産の純増加

3,434,219,041

■ 投資明細表（2019年12月30日現在）

株数	銘柄	純資産 比率 (%)	時価 (単位：円)
	上場投資信託 (99.9%)		
	日本 (99.9%)		
506,452	iShares Core Japan REIT ETF	5.0	1,118,246,016
905,187	iShares Core MSCI Emerging Markets IMI ETF	8.2	1,830,288,114
2,528,851	iShares Core MSCI Kokusai ETF	26.7	5,980,732,615
2,726,865	iShares Core TOPIX ETF	21.4	4,799,282,400
931,633	iShares Core U.S. Treasury Bond	9.7	2,165,115,092
900,221	iShares MSCI Japan Minimum Volatility ex-REITs ETF	7.6	1,712,220,342
505,181	iShares U.S. REIT ETF	5.0	1,114,429,286
193,797	iShares USD High Yield Corporate Bond JPY Hedged ETF	2.1	468,988,740
1,251,223	iShares USD Investment Grade Corporate Bond JPY Hedged ETF	14.2	3,170,599,082
	日本合計（取得原価 20,973,268,660円）		<u>22,359,901,687</u>
	上場投資信託（取得原価 20,973,268,660円）		<u>22,359,901,687</u>
	投資合計（取得原価 20,973,268,660円）	99.9	22,359,901,687
	負債を上回る現金およびその他資産	0.1	29,595,476
	純資産	100.0	<u>22,389,497,163</u>

マネー・トラスト・マザーファンド

第5期（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

信託期間	無期限（設定日：2016年1月29日）
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 券 組 入 率	純 資 産 額
		騰 落 率	中 率		
(設 定 日) 2016年1月29日	円 10,000		% -	% -	百万円 10
1期（2016年10月12日）	10,001	0.0		80.4	10
2期（2017年10月12日）	9,992	△0.1		90.6	10
3期（2018年10月12日）	9,986	△0.1		68.2	10
4期（2019年10月15日）	9,980	△0.1		68.7	10
5期（2020年10月12日）	9,970	△0.1		74.8	12

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

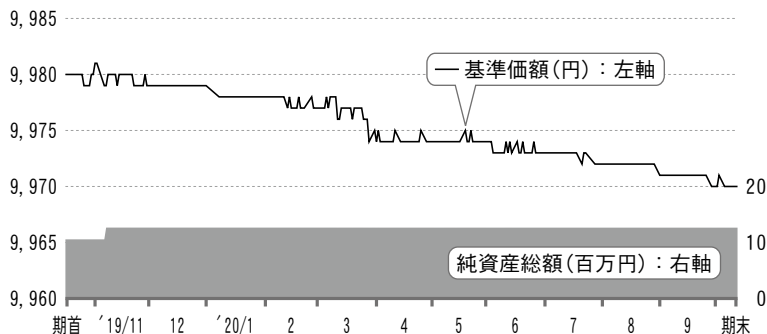
年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 率
		騰 落 率	率	
(期 首) 2019年10月15日	円 9,980		% -	% 68.7
10月末	9,981	0.0		68.6
11月末	9,979	△0.0		57.2
12月末	9,979	△0.0		68.4
2020年1月末	9,978	△0.0		68.4
2月末	9,977	△0.0		68.3
3月末	9,974	△0.1		69.3
4月末	9,974	△0.1		69.2
5月末	9,974	△0.1		72.5
6月末	9,973	△0.1		72.5
7月末	9,972	△0.1		72.4
8月末	9,971	△0.1		74.9
9月末	9,970	△0.1		74.8
(期 末) 2020年10月12日	9,970	△0.1		74.8

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

基準価額等の推移



期首	9,980円
期末	9,970円
騰落率	-0.1%

▶ 基準価額の主な変動要因（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

下落要因

- ・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

▶ 投資環境について（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

当期の短期金利は上昇しました。

物価上昇率の伸びが徐々に鈍化したことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大により景気が大きく落ち込んだことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を据え置き、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初から年末越えの運用ニーズが徐々にはく落するとともに上昇基調となり、12月初旬に-0.10%近辺となった後は横ばい圏で推移しました。しかし、2月下旬から世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大し、3月にはリスク回避の動きが強まったことから、安全資産としての短期国債への運用ニーズの強まりを背景に3月下旬に利回りは一時-0.40%台まで低下しました。過度な国債需給の引き締めりに対し、日銀が保有国債の売り現先（買い戻し条件付き売却）を断続的に実施したことから徐々に需給が緩和し、利回りは上昇に転

じました。その後は政府による大規模経済対策が策定され、5月から短期国債が大幅に増発されたことから利回りは上昇基調をたどりましたが、日銀が短期国債買入額を増額したことから利回り上昇は一服しました。国庫短期証券3ヵ月物利回りは期首-0.290%に対し、期末は-0.090%へ上昇しました。

▶ ポートフォリオについて (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

2%の物価安定目標の達成が展望出来ない中、日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債利回りやコールローン翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナス圏での推移を想定します。

残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.005% (0.005)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.005	

期中の平均基準価額は9,975円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	特 殊 債 券	9,516	— (7,200)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2020年10月12日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率	5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
	千円	千円	%	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	9,400 (9,400)	9,461 (9,461)	74.8 (74.8)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	74.8 (74.8)
合 計	9,400 (9,400)	9,461 (9,461)	74.8 (74.8)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	74.8 (74.8)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※—印は組入れなし。

B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種 類	銘	柄	期		末	
			利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
			%	千円	千円	
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	第124回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.2	2,400	2,406	2020/12/28
	第133回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.3	2,300	2,316	2021/4/30
	第135回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.1	2,400	2,417	2021/5/31
	第142回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.0	2,300	2,321	2021/8/31
合 計		計	—	9,400	9,461	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 投資信託財産の構成

(2020年10月12日現在)

項 目	期		末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
	千円	%	千円	%
公 社 債	9,461	74.8		
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3,186	25.2		
投 資 信 託 財 産 総 額	12,647	100.0		

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2020年10月12日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	12,647,720円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	3,154,457
公 社 債 (評価額)	9,461,469
未 収 利 息	29,022
前 払 費 用	2,772
(B) 負 債	53
未 払 利 息	8
そ の 他 未 払 費 用	45
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	12,647,667
元 本	12,685,274
次 期 繰 越 損 益 金	△ 37,607
(D) 受 益 権 総 口 数	12,685,274口
1 万 口 当 ち 基 準 価 額 (C / D)	9,970円

※当期における期首元本額10,580,853円、期中追加設定元本額2,104,421円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

ヘルスケア・リート・プラス	3,392,751円
米国・地方公共事業債ファンド（為替ヘッジあり）	50,056円
米国・地方公共事業債ファンド（為替ヘッジなし）	28,023円
世界コーポレート・ハイブリッド証券ファンド2017-03	871,211円
ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）	2,543,560円
ライフ・ジャーニー（かしこく使うコース）	2,453,434円
ライフ・ジャーニー（充実して楽しむコース）	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド（資産成長型）	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド（3%目標受取型）	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド（6%目標受取型）	100,141円
人生100年応援ファンド（資産成長コース）	64,109円
人生100年応援ファンド（ちよっぴり受取コース）	32,055円
人生100年応援ファンド（おもいっきり受取コース）	24,041円
MF S・グローバル株式ファンド	100,181円
テトラ・エクイティ	1,503,157円
ボンド・ゼロトリプル（予想分配金提示型）	300,632円
ボンド・ゼロトリプル（資産成長型）	300,632円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2019年10月16日 至2020年10月12日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	94,739円
受 取 利 息	97,728
支 払 利 息	△ 2,989
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△105,952
売 買 損	△105,952
(C) 信 託 報 酬 等	△ 683
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 11,896
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 21,290
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 4,421
(G) 計 (D + E + F)	△ 37,607
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	△ 37,607

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。